

# まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。  
連絡先 市まちづくり推進室 ☎43・8113



## 絆がつかないだ花火

キズナハナビプロジェクトー Be the light 光になれー



▲福間海岸から撮影したキズナハナビ

全国7つの会場で、順番に花火を打ち上げる「キズナハナビプロジェクト」の1つとして、7月28日、恋の浦で花火が打ち上げられました。「新型コロナウイルス感染症の影響で疲弊する世の中に希望の光を灯したい」という思いで企画され、観覧客の密集を防ぐため、日時や場所は事前に明かされませんでした。同じ思いを抱く花火師の絆が始まったこの企画。毎年8月に開催され、今回は中止となった市納涼花火大会を担当する株式会社ワキノアートファクトリーも実行委員として、この企画に参加しています。スタッフの相田英寿さんは「一緒にやろうと決めた花火師、支援してくれた会社、この花火を通してたくさんの絆でつながっていることを感じた。この感動を皆さんと分け合えたら」と話してくれました。打ち上げられた花火は夜空を明るく染め、花火師の皆さんの思いが一発一発に込められていました。

## 「収集車のほうきは何に使うの？」

勝浦小学校4年生に出前授業



▲話を聞くことで改めてごみ収集に興味を持った子どもたち

環境保全や清掃対策、資源のリサイクルなどの業務を担当する市うみがめ課が7月28日、勝浦小学校4年生に出前授業を行いました。この授業は、子どもたちに正しいごみの出し方や分別方法を伝えることでも、家庭から出たごみがどのように回収、処理、再生されていくのかを知る機会になりました。また、勝浦小学校区のごみ収集を担当する有限会社津屋崎清掃社の皆さんを招き、収集の様子やごみを出す際に気を付けてほしいことなどを、ごみ収集車を使いながら説明してもらいました。子どもたちからは「子どもたちからは多くの質問があり「収集車の横にあるほうきは何に使うの」との疑問に、清掃社のかたは「動物が荒らすなどして散らかったごみを集めるのに使います」と答えていました。

## 世界遺産を花でいっぱい

新原・奴山古墳群で「花いっぱい運動」を実施



▲地域の人に教わりながら球根を植え子どもたち

平成29年にユネスコの世界遺産に登録された「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群。この構成資産である新原・奴山古墳群を花でいっぱいの名所にしようと、7月31日、地元の勝浦地域の皆さんと子どもたち、市職員の総勢100人以上で、彼岸花の球根植えとコスモスの種まきを行いました。今回は古墳群の散策路沿いに千個の球根と、30号墳周辺に種をまきました。これからは9月から10月に見ごろとなる予定です。

## 相談相手に寄り添って

傾聴ボランティアほほえみと協定を締結



▲傾聴ボランティアの皆さんも表敬訪問されました

話し相手の精神的支えとなるため、高齢者福祉施設などで活動する傾聴ボランティアほほえみ。この活動に加え、電話でも話を受ける「10分ふれあいコール」を市と共働で行っています。これに先駆け、7月31日、市と傾聴ボランティアほほえみは協定を締結しました。山崎正弘会長は「たくさんの方に利用してほしい」と語っていました。

## ユーカリを自らの手でアロマオイルに

花き農家が新製品を開発



▲ユーカリの木の前でオイルを持つ花田さん

J Aむなかた花き部会の有志3人が、新製品を開発しました。これは、育てたユーカリから、花き農家自ら蒸留器を使ってオイルを抽出したもので、有志の一人である花田良博さんは「国産のユーカリオイルは珍しく、さらに国内ではあまり流通していないポリアンセモスという品種のオイルを作った」と自慢気に語ってくれました。ユーカリオイルは殺菌・抗菌作用があるといわれていて、爽やかな香りも楽しめるそうです。

## 香りと美しさに癒やされて

宮地嶽神社の手水鉢に市内花き農家の花々が浮かぶ



▲手水に浮かぶ色とりどりのダリア

新型コロナウイルス感染症対策で使用を中止している宮地嶽神社の手水。ここに宮地嶽神社のショウブやアジサイをはじめ、市内の花農家が栽培する花を浮かべています。7月にはダリアを浮かべ、今後も季節の花を浮かべること検討しているそうです。手水を見た参拝客はカメラを手に取り、その香りと美しさに癒やされているようでした。